

# ひだかなやま 飛騨金山のパワーストーン

ほたるいし

# 蛍石

Fluorite  
フローライト



ほたるいし  
蛍石



紫外線(UVライト・ブラックライト)を当てると青紫色の可視光を発する性質のものもあります



ほたるいし

## Power Stones 蛍石のパワー

は主に 精神の安定や魂の浄化など

精神力を高める効果があるといわれています。

特に緑色の蛍石は他の色に比べて

ヒーリング効果に優れ 心身ともに癒しと

パワーアップ効果が期待できます。

ささらら

金山の笹洞鉱山跡地で採れる蛍石は、

透明～乳白色・淡いグリーン・紫色などがあり

かのう

他の石英類では瑪瑙(アゲート)や玉髓

ぎょくすい

(カルセドニー)・碧玉(ジャスパー)などの

へきよく

パワーストーンも採集することができます。

### MEMO

ほたるいし

蛍石は金属の精錬時に用いる溶融剤や天体望遠鏡や  
望遠カメラなど高級なカメラのレンズに使用される鉱物です。

化学組成はフッ素とカルシウムの化合物で

硬さを示すモース硬度(10段階)は4と

比較的柔らかく、劈開といってある方向に

は簡単に割れてしまう性質のため、八面体  
のようなきれいな割れ方をします。

加熱すると淡い青色を発し、バチバチと  
飛び散ります。

けいこう

### 螢光(Fluorescence)

けいこう

蛍光灯や螢光塗料でおなじみの“螢光”は蛍石に由来しますが、  
夏の夜に乱舞するホタルの光は、化学反応によるものなので別現象。  
蛍石の発光は紫外線にさらされると結晶構造の中の活性体と  
よばれる異質な原子が引き出す現象によるものです。



金山町観光協会主催

Minerals Hunting Guide Tour

ささらら 笹洞 蛍石鉱山

## ミネラルハンティング ガイドツアー 開催中!

採集アドバイスから鉱山施設めぐり  
までガイドがご案内します!

【開催期間】3/1～10/31まで  
(冬期は休業です)

【午前の部】9:00から受付開始 【午後の部】13:30から受付開始

【所要時間】各回とも約2時間

【集合場所】菅田公民館(岐阜県下呂市金山町菅田洞 699-3)

【料金】大人 3,000円／小中学生 1,000円／保育園以下 500円  
※但し中学生以下は大人同伴でお願いします

採集した石は各自 1kgまで持ち帰ることができます

### 持ち物

● 採集道具  
(ピックハンマー・ヤクマデなど)

● 手袋

● タオル

● 飲み物

● 虫よけスプレー

● 小型のUVライト(ブラックライト)があれば  
蛍石を見つけやすく楽しめます



採集用のバケツは  
レンタルできます

### 服装

汚れてもよい格好

●長袖シャツ

●長ズボン

●長靴推奨

夏場は山ビニに注意です!  
肌の露出はできるだけ  
控えてください

## 【お問合せ/予約受付】

金山町観光協会 TEL.080-3637-2201

〒509-1614 岐阜県下呂市金山町大船渡 679-1 FAX.0576-32-3543  
E-mail: hidakanayama@hidakanayama.com

# ひだかなやま 飛騨金山のパワーストーン 蛍石

岐阜県下呂市金山町菅田笹洞

ささほらほたるいしこうざん

## 笹洞螢石鉱山の歴史

### 国内の螢石鉱山

国内では、岐阜県中津川市田原や苗木などのベグマタイトや、**岐阜県関市の平岩鉱山**などの石英斑岩を母体とする石英脈・玉髓質石英脈が知られています。他にも全国各地に螢石の産地や鉱山が分布しますが、主に岐阜県の飛騨地方から山陽地方にかけて集中しています。中でも**岐阜県関市の平岩鉱山**は、日本の生産量第1位を誇り、続いて**下呂市金山町の笹洞鉱山**が第2位といわれています。

### 『平岩鉱山と 笹洞鉱山』は 日本最大の螢石鉱床

平岩鉱山と笹洞鉱山はひとつの大な螢石鉱体であります。山をはさんで平岩鉱山は関市側から、笹洞鉱山は下呂市金山町側から掘り進め、鉱脈の最大幅は5m、断層をはさんだ総延長は600m以上に及んだと推察されています。

全国的にみても最も優良な螢石鉱山とされています。

産出量は平岩鉱山が年間6,700トンで、笹洞鉱山が年間6,000トン。他に同一鉱脈の笠尾鉱山などもあり、あわせて総産出量は推定23万トンにも及び、日本の螢石産出量の70%以上を占めています。

昭和40年前後に生産のピークを迎える、その後螢石の鉱脈が徐々に細り産出量が減少。それに加え海外の安い鉱石が輸入されたことにより、国内のほとんどどの種類の鉱石鉱山がグローバル化で閉山に追い込まれました。

現在、笹洞鉱山跡地は私の有地のため  
許可なく立ち入ることができません。  
金山町観光協会では、  
ガイド付き跡地見学と鉱石のかけらを拾う  
「ミネラルハンティングツアー」を開催中!  
探検気分でパワーストーン探しをお楽しみください。

関市上之保  
高麗市地区  
平岩市地区  
菅田地区  
笠尾地区



本坑(通洞坑)に続く  
トロッコのレール

名 称	ひだかわ 平岩鉱山	ささほら 笹洞鉱山
所在地	岐阜県関市 上之保平岩	岐阜県下呂市 金山町菅田
発見 採鉱	1950年(昭和25年) すぐに採鉱	1959年(昭和34年) 1960年(昭和35年)
最盛期	1954年(昭和29年) 全国産鈷の53%を産出	1966年(昭和41年) 全国産鈷の76%を産出
閉山	1973年(昭和48年)	1971年(昭和46年)

現存する砂石機



現在の本坑坑口(立入禁止)



坑道内



### “金山町 かなやまちょう” 地名の由来は「金の山」?



「金山で金が採れるの?」とよく聞かれますが、地名の金の由来は、黄金の金を意味するのではなく、銀や銅、鉛など金属を代表する「金」といわれています。

金山町誌(昭和50年発行)によると、

「1150余年前すでに村名が金山、と称されていたことから推定して、それ以前から金類が掘られていたと思われる。江戸時代尾張藩が産業振興のため、鉱業奨励を行ない金山さんざんが盛んに採鉱されていたと伝えられている。明治時代に休鉱し現在では各所に廃鉱跡が見られるだけであるが、江戸時代の諸文献により当時の状況を知ることができる。」とあります。大正7年(1918)頃には、戸部地区から菅田地区にかけてマンガン鉱が盛んに採掘され、昭和40年代には螢石や珪石、磁硫鉄鉱、陶石なども金山各地で採掘されていましたが、金の鉱脈は少なく、鉱物資源が豊富であったことから代表する「金」が地名につけられているようです。

### 金山町 鉱業の歴史



(参考文献)ミネラ47(園芸 JAPAN 月号増刊)エヌブレス・メディア出版 2017年 / ピクチャーブルボン(第25巻)結晶と宝石 瞑想開拓出版社 1992年  
金山町誌(昭和50年発行) / またむら(手づくりミニコミ版)No.48「またむらの地学」飛騨地学研究会 吉田修一

2020年1月